



寺だより

令和2年極楽寺お盆号

慈光のもと、檀信徒皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。また日頃より寺門繁栄にお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。

肅然と念仏に生きる



今、私たちの周りは平生さを欠いてまいりました。つまり、新型コロナウイルスの疫疾によりまして、世界が大きく波打っております。人々が、今苦難に見舞われております。平生だった人々の生活が異常になり、異常になった時に私たちが気付いたのは、いかに平生が有難かったかということでもあります。

皆様のお力添えで立派になった極楽寺本堂阿弥陀仏様から息吹が生じ、それにうながされた私どもが、その念仏の心で自らをおおい尽くすようになってくれたら、また平生を取り戻すことができるだろうと考えております。

異常の中で平生を早く取り戻そうということに深く思いを致し、自らを戒め**肅然**（つつしんだ気持ちになって、しずまり変える様子）と己を守って、周りに影響がないようにしていきたいものです。

こうした心を念仏のうちに持って、平生を取り戻していこうとするその祈念が、法然上人さまの恩徳に報い、また私たちをも生かすことになるのではないかと思います。

皆様におかれましては、どうぞお身体には十分にお気をつけの上、健康で過ごすごことができるよう心よりお祈り致します。

お寺からの御案内やお知らせが届きますように、**新住所**に変わりましたら、必お知らせ下さい。(電話・FAX可)



お仏壇は家庭のお浄土

お仏壇は、寺院の本堂の飾り(荘嚴)を模して造られました。そして、浄土宗において本堂は、お経に説かれる極楽浄土をイメージして造られたもの。つまりは、私たちが家庭に安置する仏壇とは阿弥陀さまを中心に蓮の^{うた}に生まれたご先祖さまがいらっしゃる極楽浄土を表した聖なる空間といえます。

そのお仏壇を常日ごろからきれいに整え、阿弥陀さまやご先祖さまへの敬いの心をもって、一日の始まりや就寝前にお仏壇の前で心静かに手を合わせ、「南無阿弥陀仏」とお念仏をおとなえしてみてください。悲しみの中で見送られた大切な方への想い、また多くのご先祖さまがいて今の自分があることなどを忘れることなくお仏壇の仏さまに向き合い、自身を見つめるひととき。

それは、人生を豊かにするためにも大切であり、何より心の平穏を保つ一助になるのでございます。合掌

施餓鬼大法要は
8月17日(月)
(令和元年6月～令和2年6月
までの新盆精霊位の旅です。
◎諷誦(ふじ回向)料 1,000円
◎付施餓鬼塔婆料 3,000円
です。

お知らせ



今年予定して居りました晋山式は総代会で話し合いを致しましたところ、コロナ禍の為無期限延期と決まりましたことお知らせ申し上げます。

住職の寺庭婦人(聖子)が三年前に入院、手術を致しました。その時結果、難病指定のクローン病(腸の病気)と診断され、今オストメイト(人工肛門)を着用し通院しながら病気と戦っております。今のところ、命には別状はありませんが、寺庭としての役割りが勤められません。ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

自利利他

「願うのは…」
二位と最下位との差なんて大したことないんだよ。ゴールすることとしないことの差に比べりゃ」
これは、ある物語の主人公の言葉であります。この世の中には様々な優劣があり誰が上で誰が下かと競い合い、または切磋琢磨し高め合いながら素晴らしい結果をもたらす事もあります。その善し悪しについては、必死に生きる我々が判断することではなく賛否両論ではないでしょうか。

しかし何れもこの世は欲や煩惱にまみれ、または、震災や台風、豪雨や火災等々による自然災害に戸惑い、ただただ為す術も無く振り回されていくのみであります。一寸先が闇かどうかもわからず、右も左も知らぬ愚かな我々人間であります。しかし阿弥陀様はそんな私達を決して見捨て置く事はせぬぞ。と、深い御慈悲の御心にて救いの手を差し伸べて下さっているのです。「お念仏申せよ。我が名を呼べ。呼べば必ず後の世は、苦しみ無き我が極楽のお浄土へ必ず迎え振るぞ。」という阿弥陀様の御本願。なんと頼もしき、なんとも有り難き御本願でありますか。

私たち人間は、この世に生を受け死を迎えるまでに、どんな苦勞があろうとも、どんなに辛く無様であろうとも精一杯生き抜いていこうと誰もが願うところでありましょう。しかしながら、さらに我々が願うべき最後のゴールとは、命終えた後の極楽往生であります。極楽に往生するために今、阿弥陀様の御本願のお念仏、南無阿弥陀仏と申すのみであります。

大本山増上寺
布教師会、会報に掲載
されました。

千葉教区 極楽寺 伊藤良成